

一 次の問いに答えなさい。

1 次の(1)～(4)の文中の傍線を付けた漢字の読み方を書きなさい。また、(5)～(8)の文中の傍線を付けたカタカナを漢字になおし、解答欄の枠内に書きなさい。ただし、漢字は楷書で、大きくていねいに書くこと。

- (1) 道具を倉庫から出す。 (2) 腹式呼吸を意識して歌う。
(3) 異なった立場から論じる。 (4) 閑然とした事実。
(5) カイタンを上って教室に行く。 (6) アブラ絵を描く。
(7) 掛け算とわり算を使った計算。 (8) 弓で矢をイユ。

2 次のア～ウのうち、敬語の使い方が適切なものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。ただし、「私」は中学生であるものとする。

- ア 先生は私に「こんにちは」と申し上げた。
イ 先生は私の描いた絵をご覧になった。
ウ 私は駅のホームで先生にお会いになった。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

どんなに^①大きなことも、最初の一步は小さなことから始める。大切^②なことは、はじめてみるのだ。簡単にできるのにもかかわらず、なされていないことはたくさんある。できることをはじめることから、まちづくりははじまていく。

何ができることなのかを、思いつき、見極めなければならない。まちがどうなるのがよいのか、そのために何をやるのかについてイメージを持つことがまちづくりの第一歩だ。

やるべきことが見つかったら、どこから手をつけるかを考える。時間とお金

1 大きな^①、大切^②な品詞はそれぞれ何か。次から一つずつ選び、それぞれ記号を○で囲みなさい。

- ① ア 連体詞 イ 副詞 ウ 形容動詞
② エ 連体詞 オ 形容詞 カ 形容動詞

2 後者^③、前者^④のさしている内容として最も適しているひとつづきのことを、それぞれ本文中から抜き出さなさい。ただし、「後者」は十一字、「前者」は八字で抜き出すこと。

3 ⑤ まちづくりは苦行ではないとあるが、本文中で筆者がこのように述べる理由を次のようにまとめた。 a に入る内容を、本文中のことは使って十八字以上、二十三字以内で書きなさい。また、 b に入れるのに最も適しているひとつづきのことを、本文中から八字で抜き出さなさい。

できることからはじめてみると、自分たちの動きによって、頑として a がわかり、自分が暮らすまちが良くなっていくのを見ることには、 b はずだから。

がいばん大きい制約条件だ。自分の持っている資源をどのように使えばよいのか、今の自分にできること、無理なく実行できることを探してみる。

③ 「できることをやる」のは「できることしかやらない」のとはまったく違う。後者は、自ら描いたまちのイメージへと結びつくプロセスを構想する意図がないことを示している。④ 前者には、今はできないこともできるようにする、という展開の予感がある。そして、できることをやっていると、かならず誰かが現れる。思いがけない出会いが待ち受けているはずだ。

何からはじめたらよいのかわからないときは、自分が暮らしやすいまちはどのようなものであるのかを考えてみるのだ。考えているうちに、自分の周りのひとつひとつが暮らしやすくなるために何をしたらよいかというところも考えている自分に気がつくことだろう。まちづくりのきっかけは至るところにある。はじめは、何も変わらないことにいらだたりすることもあろう。まちづくりという活動は、変化が見えにくい。けれども、できることをやっていると、状況も周囲のひとつとも変化する。落ち着いて眺めてみると、まちが変わるのに必要な時間は思いのほか長くないことがわかる。何より大切なことは、焦らないことだ。

⑤ もちろん楽しいことばかりではないが、まちづくりは苦行ではない。自分が暮らしやすくなるようになっていくのを見ることには、大きな喜びがある。動きはじめて数年後、振り返って見る時には、何も変わらないように思えたまちが大きく変わっているのに気がつくことだろう。

はじめてみると、あらかじめ与えられたものとしてそこにあり、頑として変わらないように見えた世界が、自分たちの動きによって変わっていくことがわかる。世界が変わえられるのだとわかれば、未知の力が湧いてくることもあるだろう。数年後、どうしてそんなことができたのか、自分たちでもわからないほどの変化を起こすことができるかもしれない。登山のように、来た道を振り返って見るときには大きな喜びがあるはずだ。

その喜びは、自分たちが暮らしたいまちをイメージして、できることから始めることにかかっている。

(橋本憲一郎・山田新太郎『まちづくり』のアイデアボックス)による)

彰国社 二〇〇九年

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある法師のもとより、二人おはして遊ばるる児のもとへ、座禪大豆を少し送りたりしことあり。大児嬉しげに手を出し、^A 憚らずつかまんとしけるを、小児ちやくと手をとらへ、^C 「そのやうに不得心な風情、陰より人の見る目をもかへりみ給へ」とて、箸を膳とり来り、一膳を渡し、「大児役に、そなたは二粒づつおまぬれ。われは小児役に、一粒づつ給はらん」といふ。はさむに、大児はともすればはさみはづし、小児の矢さははづれず、はしりほしりと当たりしことよ。

(注) 座禪大豆 〓 黒大豆を甘く煮たもの。

1 本文中のA～Cの――を付けたことばのうち、その動作を行っている人物の異なるものが一つだけある。その記号を○で囲みなさい。

2 ① おまぬれを現代かなづかいになおして、すべてひらがなで書きなさい。

3 次のうち、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア ある法師は、座禪大豆を食べようとする小児と大児に向かって、小児よりも大児の方が多く食べるようにしなさいと言った。

イ 小児は、座禪大豆をすぐに食べようとした大児に対して、後で誰も見ていないところで食べるべきだと言って箸を渡した。

ウ 大児は座禪大豆を箸で二粒ずつはさもうとしたためうまきはさめなかったが、小児は一粒ずつはさんだためうまきはさめた。

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

秋の楽しみの一つにサツマイモの芋ほりがあります。さてこのサツマイモ、つるは何本あるでしょう。答えは、何本も、です。「え？ ずるいよー」といわれてしまいそうですね。サツマイモの場合、数が決まっているわけではなく、一本の芋から複数のつるが生えてきて、どんな芋ができるのだから。

ところが私は子どものころ、芋は一本の独立したつるの下にできるものと思いい込んでいました。**ア** 原因は「芋ほり」でした。私の「初芋ほり」は、幼稚園の遠足で行った東京郊外の農園でした。**イ** ほっくりと柔らかく湿った土の山のでっぺんを指でなぞっていくと、硬くて細い棒のようなものに触ります。**ウ** 他のつると重なったり触れ合ったりせず、きれいに一本でまっすぐに地面に横たわっていました。つるをたどると、端が畝の中に入り込んでいます。ここにシャベルを入れたら、ゴロツとお芋が現れました。**エ**

つるを引くと、その先につながった重たい芋が、いくつかがって土を散らしながら出てきました。散った土は指と同じ温度でしたが、出てきた芋はしっかりと湿っているせいか、かなり冷たく思えました。大きいとか小さいとかいいながらほった芋は、落ち葉の山に埋め込んで焚き火をし、焼き芋にしてはおばりました。

これで芋の収穫を経験できたと思いい込んでいたところ、後年、子どもの芋ほりを受け入れる農園の多くが、簡単にたくさんはれるようにつるを切り取って準備しているとの話を聞いて、衝撃を受けました。芋は何本ものつるが絡まった下にできているもので、本来の芋ほりはいきなりほるのでなく、土の上で複雑に絡みあったつるや葉っぱを切り取る作業からはじまるのです。私にはつるを切り取った記憶はなく、ほった芋はいつも一本のつるの下にありました。ということは、おそらく私たちも、農園の方の念な準備のもとで芋ほりを楽しませてもらっていたのでしょう。

農作業の場合、子どもがすべてをできるわけではないので、あるところは大人のフォローが必要です。私が経験した芋ほりも万全のフォローのもとでのもので、本物の農作業から見れば「なんちゃって」かもしれません。

それでも、私には大切な「初めて」でした。そしてこの「初めて」は、大人

- 2 本文中には次の一文が入る。入る場所として最も適しているものを本文中の **ア** ～ **エ** から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

この土の山は畑の畝、棒のようなものは芋のつるでした。

- 3 **②** 衝撃を受けましたとあるが、本文において、筆者はどのようなことに衝撃を受けたのか。その内容についてまとめた次の文の **a**、**b** に入れるのに最も適しているひとつづきのことを、それぞれ本文中から抜き出さなさい。ただし、**a** は十字、**b** は五字で抜き出すことに、
- 子どもの芋ほりを受け入れる農園の多くが、子どもが芋を **a** ように、**b** をしているということ。

- 4 **③** 本物といっても許されるでしょうとあるが、本文中で筆者は、ジャガキツズの芋ほりは、どのような点において本物だといえるか述べているか。その内容についてまとめた次の文の **□** に入る内容を、本文中のことを使って二十字以上、三十字以内で書きなさい。

農家の方に整備してもらわずに、自分で **□** という点。

になって思いがけないすてきな思い出につながったのです。

「初芋ほり」から二十年以上たってベランダガーデニングにハマったとき、ふと「初芋ほり」のことを思い出し、今度は種芋から育てて「ちょっぴり本当」の芋ほりをやってみたくなりました。サツマイモを育てるスペースはなかったのので、ジャガキツズという種類のジャガイモを植えてみました。

青々と茂った葉の下をほったら、ありました。鶏の卵くらいのちっちゃなジャガキツズ。落とさないようにそうっとほり出して数えてみたら二十一粒。なかなかの豊作です。が、小さすぎて夕飯の足しにはならないので、ざるに入れて鍋の隅っこに沈め、お店で買ったお芋と一緒にゆでました。

驚いたことに、この小さなジャガキツズの甘味が、お店で買った大きなお芋よりずっと濃かったです。食事中だけに舌を巻いたのです。

こんな小さな芋ほりでしたが、農家の方に整備していたのではありません。種芋を買いに行くところからはじめ、鉢や土を厳選し、毎日丹精して育て、やっとほりあげた芋をゆでて味わえたのです。完全な本物とはいえませんが、自分でやった点においては本物といっても許されるでしょう。

少しでも本物に近い芋ほりをしてみたいと思いつけたこと、その結果一つの新しい楽しみに出会えたことは、幼稚園で「初芋ほり」を経験したおかげでした。たとえ「なんちゃって」でも、これは子どもたちの「初めて」がくれた文字通りの「収穫」となったのです。

(宮麻由子『センス・オブ・何だあ?』による)

- 1 **①** 私は **①** に対する述語(述部)を次から一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 子どものころ **イ** 独立した **ウ** できる **エ** 思いいんできました

- 5 次のうち、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア 筆者は、芋ほりを経験するまでは、芋は一本の独立したつるの下にできるものと思いいんできたが、幼稚園の遠足で芋ほりを経験したことで、芋は何本ものつるが絡まった下にできているものであることを知った。

イ 幼稚園の遠足の芋ほりでは、筆者がつるを引くと、重たい芋がいくつかがって土を散らしながら出てきたが、散った土はかなり冷たく、出てきた芋はしっかりと湿っていて指と同じ温度のように思えた。

ウ 筆者は、ジャガキツズという種類のジャガイモを植えて芋ほりをし、店で買った芋と一緒に鍋でゆでたところ、ジャガキツズの甘味が店で買った芋の甘味より濃くしたということに驚いた。

エ 幼稚園の遠足での芋ほりは、本物の農作業から見れば「なんちゃって」だったかもしれないが、筆者はその経験から、本物に近い芋ほりをしてみたいと思いつくことができ、その結果一つの新しい楽しみに出会うことができた。

- 5 早く時間が過ぎたと感じるのはどのようなときだと思いますか。自分の体験を挙げながら、あなたの考えを別の原稿用紙に百八十字以内で書きなさい。

〈問題五を除く〉

二							
3				2		1	
b	a			④	③	②	①
			頑			エ	ア
			として				
23							
						オ	イ
						カ	ウ

22	4		6	3	3	3	3	採点
----	---	--	---	---	---	---	---	----

一								
2	1							
	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
ア								
イ								
ウ								

18	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	採点
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----

四						
5	4			3	2	1
				b	a	
ア			自分			ア
			で			ア
イ						イ
						イ
ウ						ウ
						ウ
エ						エ
						エ

26	5		6	4	4	4	3	採点
----	---	--	---	---	---	---	---	----

三		
3	2	1
ア		A
イ		B
ウ		C

12	4	4	4	採点
----	---	---	---	----

受験 番号	番
----------	---

得分	12
----	----

- ・原稿用紙の正しい使い方にしたがって書くこと。
- ・題名や名前は書かないで、本文から書き始めること。

采点	12
----	----

[illegible]